

部課室名	農林水産部農林水産局 総合農政課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 廣田 道夫 (小川 至紀)	内線	3927 (3946)
------	---------------------	---------------------	---------------------	----	----------------

事業種目	中山間地域振 興対策	事業名	事業区域	総事業費	
		新山村振興等農林漁業特別対策事業	篠山地区	360百万円	
所在地			着工予定年度	完成予定年度	
篠山市篠山地区			13	16	
事業の目的			事業内容		
<p>中山間地域の特性を踏まえつつ、地域農業の振興や都市との交流、定住条件の整備を総合的に振興することにより、平地との格差是正を図る。特に本地区のうち山村振興地域が全面積を占めている旧今田町の地域農業の振興と農業所得の向上を目指す。 事業主体：篠山市</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産物処理加工施設 1棟 450㎡</li> <li>・総合鳥獣被害防止施設 5,000m</li> <li>・滞在型体験農園施設 3棟 1,000㎡</li> <li>・農林水産物直売施設 1棟 60㎡</li> </ul>		
評価視点		評価結果の説明			
(1)必要性		<p>篠山市は、「特産館ささやま」、「黒豆の館」、「ハートピアセンター」等を整備し、交流人口が年々増加しており、地域農業の振興や農業所得の増加、雇用機会の創出等において大きく貢献している。特に、黒豆や山の芋などを利用した特産品開発や販売による需要の拡大を通して、担い手農家も育成されつつある。しかし、山村振興地域が全面積を占める旧今田町は、担い手や後継者の不足により農業の活力が低下しつつある。そのため、地域にある食材を活用した特産品開発や販売等による需要の拡大を図るとともに農業体験を通じた交流を促進する滞在型体験農園の整備が必要である。また、現在高齢者比率が26%と高く、生きがい発揮対策としての高齢者や女性の活用場としても、たいへん役に立つ。 また、近年市全域において野生鹿等の鳥獣による農作物への被害が増えつつあり、このまま放置すれば農家の生産意欲の衰退とともに、耕作放棄による公益的機能の低下につながる。そのため鳥獣害防止施設も併せて実施する必要がある。</p>			
(2)有効性・効率性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施により下記の効果が期待できる。 特産品開発・直売により農業所得の増加。 滞在型体験農園等を活用した都市との交流による新たな雇用の増加。 鳥獣害防止対策等による耕作放棄地面積の減少。</li> <li>・用地等地元との協力体制も整っている。</li> </ul>			
(3)環境適合性		<p>資源の有効利用と循環を図るため、事業で実施する施設については、極力木造とし、内装についても木質化に努める。また、施設の周辺は緑化に努めるとともに、景観等へも配慮する。</p>			
(4)優先性		<p>12年度から始まる中山間地域直接支払制度と併せて実施し、また関連する中山間総合整備事業と連携して実施することにより、中山間地域振興への相乗効果が期待できる。そのため13年度の実施が必要である。</p>			
評価の結果	着手妥当	左の理由	審査の結果、事業着手が妥当と認められた。		